4.5.　民間主導の休憩施設ネットワーク化事例（埼玉県戸田市）

(1)　取組の背景・経緯

市内のＮＰＯ法人「まち研究工房」では、街中において、足腰の弱った高齢者、乳児を抱いた人や幼児を連れた人などが辛そうに歩いていたり、地べたに座り込んでいたりする様子を見かけたことを契機に、生活道路上や沿道に休憩スポットを数多く創出しネットワーク化するなどの取組みを進めた。

(2)　取組の内容

ＮＰＯ法人「まち研究工房」が中心となり、まちなかの沿道に存在する、ＪＲ高架下、医療施設、店舗、公道等のデッドスペース（未利用地等）を、主に移動困難者のための休憩スポット「おやすみ処」として、市内約 50 箇所にベンチを設置し、植栽の維持管理などを行っている。これらの休憩スポットは、移動困難者の歩行距離を勘案し、50～100m間隔で設置するなどのネットワーク化を目指している。

写真 4-6　ＪＲ高架下の休憩スポット

写真 4-7　公道上におけるベンチの設置（バス停前）

民間主体で進めているため、さまざまな民間事業者・ボランティアからの協力や県からの助成を受けながら柔軟に運営してきている。

(3)　整備の効果

整備の効果としては、退院後の歩行リハビリに役に立っているなど、高齢者や障害者などの移動困難者の休憩ポイントとなるとともに、さまざまな世代の交流が行えるスペースとしても役立っている。

写真 4-8　店舗前のベンチでくつろぐ歩行者

出典：第５回国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰